

岐阜県環境影響評価審査会 委員会B 議事録(概要版)

- 1 日時：平成24年11月19日(月) 午後1時～午後2時10分
- 2 場所：瑞浪市陶磁器会館 大会議室
- 3 議題：一般国道19号瑞浪恵那道路 環境影響評価準備書について
- 4 出席者：永瀬委員、中村委員、鹿野委員、浅野委員、村井委員、田中委員、清水委員、岡本委員、高橋委員
- 5 議事：当該事業に係る環境影響評価の手続き状況について事務局より説明。
当該事業の概要及び環境影響評価準備書の概要についてアセス実施者より説明。
その後、質疑を実施。

< 質疑応答の内容 >

【委員長】

今の説明について御意見、御質問がありましたらお願いします。先ほどの課長のあいさつにもありましたように見解書提出後に第2回の審査会が予定されておりますので、今回の審査会においてはこの後に視察もあり、時間があまりありませんので、今回の説明に関する確認の質問をお願いしたいと思います。アセス実施者の皆様におかれましては、今日御回答いただけない質問については次回御回答いただくというかたちでも結構です。

【委員】

10月31日、11月1日に説明会が開催されたということですが、何人くらい集まりましたか。何か特別な意見は出たのか、一方的に説明する説明会だったのかということについてお伺いします。

【アセス実施者】

説明会は午後7時から開催し、主に地元の方に来ていただきました。瑞浪市の説明会で36名、恵那市の説明会で58名の方に出席していただき、説明の後、御質問をお聴きしています。

瑞浪市では特に意見はありませんでしたが、恵那市のほうで若干、家に近いルートがありますので騒音についての心配がございました。

【委員】

準備書のあらましのパンフレットにある大気質の粉じんの影響について、予測断面のところが9.8でほとんど参考値ぎりぎりの状態になっています。この理由は、準備書の8-1-21に土砂の掘削が理由と書いてあります。土砂の掘削は、
、
の箇所、
はそんなに深くなく、
の掘削する深さは6.9m、
は5.8mですから、掘削が深いと影響が大きいというようなものでもないと思われま。粉じんの影響はどのように予測されていますか。また、参考値は10t/k㎡/月で、これはスパイクタイヤ粉じんの指標を参考にしたという説明がありましたが、この数値がどれ位の影響なのかわかりません。

【アセス実施者】

予測断面とは堀割地点となっております、かたちとしてはそれほど変わらないのですが、風向が違う影響でこれほどの差があるようです。参考値の10t/k㎡/月については、準備書の8-1-20の表8.1.13の下に記載しておりますが、スパイクタイヤの粉じんにおける生活環境の保全の必要な地域の指標が20t/k㎡/月が目安と考えられておりまして、これをもとに、降下ばいじんの比較的高いところが10tであるということですので、その差として10tを参考値としている

ということでございます。

【委員】

10t/k m²/月というのはどの程度ですか。

【アセス実施者】

洗濯物を干しておいて粉じんで汚れが目立つ程度でございます。

【委員長】

今の関連で、予測地点が道路の右だったり左だったりしていますが、風向を中心に選んでいるのかあるいは住居の多い側を地点にとっているのか。大気や粉じんで影響が大きくなるのは風下方向だと思いますが、地点は右左ばらばらになっています。何を中心に予測地点を選定しているのですか。

【アセス実施者】

道路に対して、家がある方向、保全対象がある方向に対して評価していますので、それにより右左を選定しています。

【委員長】

住居の数が多いほうということですか。

【アセス実施者】

近くに住居があってより道路に近い方を選定しています。

【委員】

鳥類の関係で、ハチクマ等の保護について施工時期を工夫するということですが、具体的にそういうことを考慮されて既に時期を計画されていますか。

また、これは意見として取り扱って頂ければと思いますが、サシバの保護対策として法面の植栽ということが書かれていますが、鹿の生息も確認されているところなので、法面を不適切に植栽すると鹿の誘引を招き、それがロードキルや交通事故の原因になる可能性もあるので、慎重に検討いただければと思います。

【事業者】

ハチクマは8月に繁殖期になるので、今後工事計画を具体的に決めていきます。

【委員】

植物のほうでお聞きしたいことがあります。シデコブシ以外の重要種は、瑞浪市のほうは大きな群落は計画路線内にはないようですが、恵那のほうでたくさん出てきているようです。例えばミカワバイケイソウが三百何株とかイヌタヌキモの群生地、ミクリの群生地などいろいろありますが、これらが全て路線内に入っているのですが、保全対策として移植で対応するので影響は少ないと先ほど説明がありましたが、本当なのでしょうか。これだけの数のものを移植で対応して影響が少ないという言い方ができるのかというのが疑問です。

2点目はシデコブシについてです。わたしも調査していますが、どこの谷に行ってもたくさんありますので、ここのシデコブシを移植するということが本当にいいことなのか、しなくてもたくさんあるので、そんなに影響がないのではないかと思います。経済的なことを考えれば、悪い

言い方もかもしれませんが、移植というのは個体の保護であって、シデコブシについては活着率は悪いです。根株移植しても3割くらいしかつかないです。成木移植したらほとんど枯れてしまいます。そんな状況の中で莫大な金をかけて移植する、また移植先を攪乱するというのが本当にいいのだろうか。このあたりにはシデコブシがたくさんあるので移植しないという選択肢もあるのではないかと考えていますので、検討していただくとよいと思います。

貧栄養湿性草地群落位置では路線内では1箇所しかないのですが、近くにまとまって群落が確認されているところがありますが、これが切土などによって水道（みずみち）が変わって、そこが湿地ではなくて乾燥化して、今は直接に影響は受けないのですが、将来的に消失してしまうということが起こらないのかなと思います。その予測はきちんとされていますか。もし予測されているようでしたら、その辺もお話していただけたらと思います。

3つ目は生態系についてですが、生態系の調査結果を見ると、森林では現在こういう生態系ができていて、草地ではこう、水田ではこうという図は載っているのですが、ここの生態系というのはこの道路を造ることによって山側と水田側が分断されて、分断されることによって生態系が変わる。ではどのように変わるのかというのを予測するのが生態系の予測であると思います。例えば山側に今、キツネやタヌキ、タカがいる。これが分断されることによって水田側に降りていけなくなるとすると水田側では今タヌキやキツネによって食べられていた動物が食べられなくなるのでそれが増える。それが増えることによってどうなるか。増えたならば、増えた動物がそれまで食べていた餌となるものが減る。それが減ることによってそれがほかにどういう影響が出てきて、生態系がどのように狂うのかというのを予測していくのが生態系の予測で、それが予測されていないというのが問題です。非常に難しい問題ですが、生態系がどう変わるのかというのを予測していただくのがよいかと思います。

【アセス実施者】

まず重要種についてですが、対象道路事業実施区域を250m幅で線を引いていますけれども、実際のところは道路は16.25mでそれに法（のり）がつくということですので、ここにあるものを全部移植するというではありません。詳細については、詳細な設計をされた後に移植を含めた検討をされるということになっております。

【事業者】

すべてに答えきれないかわかりませんが、湿地については路線が基本的には下流にありますのでそれほど影響がないのではないかと考えています。生態系についても分断等の御指摘がありましたが、これも移動経路を確保するという前提で整理をしておりますので、生態系への影響は少ないであろうということです。

【委員長】

まだ御意見があるかと思いますが、時間の関係で今日はここで終了したいと思います。次回に質疑を中心とした審査会を設けますので、それまでに今日できなかった質問等を事務局へ御連絡いただきまして、予めアセス実施者のほうへ質問を送るようなかたちとして、次回の審査会で詰めていきたいと思っています。